



秋の全国交通安全運動



県南教育事務所長  
佐藤 賢信

令和7年9月21日(日)から30日(火)までの10日間、「秋の全国交通安全運動」が実施されます。交通事故による幼児・児童の死者・重傷者の割合の中では歩行中や自転車乗用中の割合が高く、特に、歩行中児童の死者・重傷者は登下校中の割合が全体の約4割を占めるなど、依然として通学路を始めとする道路において子どもが危険にさらされている状況にあります。

今年度8月までの県南管内での児童生徒の交通事故件数は7件(令和3年度から令和6年度までの平均は21件)、教職員の交通事故件数(加害と速度超過違反)は8件(平均は22件)例年になく事故件数が少ないことはよい傾向ですが、重傷事例もありますので様々な要因を分析し、対策を講じる必要があります。

学校で事故が発生した場合、所定の様式で事故の報告を行います。事故の発生から事故後の状況まで継続的に詳細に報告します。事故の詳細な検証から再発防止に向けた対策を講じる必要があるのです。交通事故に限らず、類似の事故が繰り返し起こっています。



交通安全運動期間は特に全校で事故防止に取り組んでください。

また、教職員の交通事故は、状況によっては不祥事とみなされることもあります。「コンプライアンスは法令遵守」であることの意識を高めてください。法を理解し、そして、適切に対応することがコンプライアンスであるということです。

人事課

★★笑顔いっぱいの学校を目指して★★



管内の全ての小・中・義務教育学校で学校が再開されました。夏休みを経て、ひとまわり大きくなった子どもたちが生き生きと学べるよう、より充実した教育活動の展開をお願いいたします。

さて、8月6日に、副校長・教頭先生方を対象に管理職夏季研修会を行いました。事例(指示が通りにくい一部の児童への体罰及び不適切な指導が学級全体へ影響した)を読み、保護者会を開くことを想定した協議をし、演習「模擬保護者会」を行いました。研修後の振り返りについて一部紹介します。

- 保護者会を開催しなければならない状況をつくらない学校運営と体制づくりの推進を強く感じました。もし、こんな状況になった場合には、学校として職員への危機感の共有と実践が必要不可欠であり、信頼回復への手立てを教職員と共に考えることが重要であると思いました。
- 模擬保護者会で担任の役を演じさせていただきました。涙が出そうになりました。実際に起こりうるケースでとても身近な問題でした。決して油断せず、研修を生かし、職員のチーム力を高めていきたいです。
- 不祥事(不適切な言動等)が起きてしまった後の対応を考える上で、日頃の危機管理の意識の大切さ、迅速な対応の必要性、決断力の大切さなどを再認識した。トラブル発生後の対応やQ&Aを考えたことで新たな視点や気づきを得られた。
- 緊張感の中、こうなる前に打つ手はなかったのかというイメージを思い描くことができました。自校においても演習をアレンジしてコンプライアンス研修に取り入れることで全職員が自分事として考えるきっかけになると感じました。

現状を適切に把握し、よりよい対応を実践できるよう、組織での対応及び常に研究と修養に努める必要があります。それぞれの学校でコンプライアンス研修等を通じてアイデアを出し合い、不祥事を未然に防ぐ工夫をすることで笑顔いっぱいの毎日にできるようお願いいたします。

7月29・30日(火・水)に、小・中学校等教育課程研究協議会を実施しました。参加者は学習指導要領実施に伴う指導及び評価上の諸問題について、各部会のテーマを基に研究協議を行いました。持参した資料を基に「どんな手立てが成果につながったのか」「課題となっている原因は何か」等についてグループで熱心に話し合い、授業の工夫・改善点を共有していました。短い時間ではありましたが、指導及び諸課題について協議することができました。

各会場での研修内容を各学校で共有するとともに、全国学力学習状況調査の結果を分析し、報告書や授業アイデア例等の活用をすることで、「問いの発見と解決に重点を置く探究的な学びの充実」のために、より一層「試行錯誤・アウトプット・まとめと振り返り」を重視した授業づくりをお願いします。



## 市町村教育委員会紹介



### つくばみらい市教育委員会

つくばみらい市教育大綱  
Realize Your Dream  
夢をもって 世界へはばたこう



つくばみらい市では、「新しいみらい しあわせ実感教育のまち ～子どもたちがしあわせな未来を送るための学校教育～」を教育ビジョンに掲げ、令和7年度は学校教育改革の3年次としてスタートしました。

改革の重点として、(1) 未来型カリキュラム・マネジメントの推進 (2) 豊かな心を育てる教育 (3) 英語教育の充実 (4) 理数教育の充実 (5) ICTの効果的な活用 (6) 部活動地域展開の推進 (7) 総合教育支援センターの充実を掲げ、取り組んでいます。また、子どもたちの教育を担う教職員を大切に育てることに力を入れています。

#### 切れ目のない英語教育

本市では「英語が使える15歳」の育成を目指し、保幼小中で一貫して英語教育に取り組んでいます。取組の一つである「Tsukubamirai English Day」は、今年度12月で3回目を迎えます。市内の公立幼稚園、小中学校が一堂に会して、日頃の学習の成果を発表する機会となっています。



#### 興味・関心を高める理数教育

今年8月、小学校4年生以上を対象に、「第1回マス・トライ・デー」を開催しました。思考力や発想力が必要となる様々な問題にチャレンジしたり、筑波大学の清水美憲教授による算数ワークショップに親子で取り組んだりして、算数を学ぶことの楽しさや魅力を感じ、興味・関心を高める1日となりました。参加した親子からも好評の声をいただきました。次回は3年生以下を対象に企画しています。

#### 心の拠り所となる総合教育支援センター

旧十和小学校をまるごと活用し、令和5年10月に開所したつくばみらい市総合教育支援センター内の適応支援教室「なのはな」は、多様な学びの場の一つとして年々需要が高まっています。令和7年度からは給食の提供も始まり、「給食が好きなのでうれしい」という児童生徒の声が上がっています。

また、全中学校に設置された校内スリースペースの指導員とも連携して、不登校支援にあたっています。

#### 先生のを(輪・和)が広がる新規採用教員研修

市新規採用教員研修の一環として、3年次までの教職員を対象にした研修を8月に実施しました。グループ協議や全体での意見交換を通して「教育現場で生じる諸問題への対応」について考えました。その後の懇親会では、日頃の悩みや希望を語り、共感し合ったりして、横のつながりが深まりました。

